



ぐっどらんど キッチンカー 2/21 (金)

# あゆみの家

No. 143号

## 経営会議

今年度、あゆみの家は組織を大きく変更しました。

これまで、八つの事業所があり、事務局長がそれらの事業所を統括する組織でした。今年度からは、総務部、地域生活支援部、生活支援部、日中活動支援部の四つの部をつくりました。各部長を中心に、各部内の課題を、より迅速に解決していけるような組織に変えました。

そして、事務局長、統括部長、部長というメンバーによる経営会議を新設しました。これまでのあゆみの家は、「経営」ができていたか、はなはだ疑問だと思っています。

日本知的障害者福祉協会の前会長の井上氏が、「自身が所属している社会福祉法人「愛泉会」のホームページのブログに、「私の愛読書は、PFDラッガーの「非営利組織の経営」で、経営会議のメンバーに是非読むようにすすめています。」と書いておられました。「非営利組織の経営」をネット上の要約版で少し読んでみましたが、難解でよく理解できない部分も多くありました。この本には「非営利組織の目的は、人と社会を変えたい」とあります。私たちの法人においては、障がいのある利用者がより豊かに社会生活をおくる事ができるよう支援していくこと、障がいのあるひとりの一人に優しい社会になるように社会に働きかけていくこと、この二つが大きな目的ということだと思います。この経営については、もっと勉強が必要だと思います。

「コロナ後、経営破綻する社会福祉法人も、少なからずあるという噂です。絶対に経営破綻するのをいかなる手段があっても、なりません。そのためにも、新たにできた経営会議が機能し、着実な経営を実践していくことが必要です。また、今ある課題をひとつひとつ解決し、あゆみの家が、今後この地域で、なくてはならない法人として、役割を果たしていくために、努めていきたいと思えます。

## 時の流れ

理事長 中橋 昇



今年、あゆみの家が創立されて五四年目を迎えました。この間、創立者や創立に関わり、支援して下さった内外の多くの皆様がおられます、

これらの方々に心から感謝申し上げます。

五四年間、継続出来ている事に対して、職員の皆さんの働きが大きく、また法人運営に携わる職員の労苦も労いたいと思います。

一九八五年四月は、入所施設第二あゆみの家が療育開始した年です。丁度四〇年になります。三〇名定員の通所施設あゆみの家だけであった法人が、新たに地域のニーズに添えて五〇名定員の入所施設を建設する事を決め、この年に実現できました。

岐阜県庁に於いて、入所を希望される保護者の代表の方々と法人代表者と事務方とが、ヒアリングを受けて国庫補助による建設を進行して良いかの判断を受けたのを思い出しました。同時に西南濃県事務所を始めとして、利用者の出身市町村のヒアリングも受けました。関係市町村への補助金を申

請し、支援して頂く為に通過しなければならぬ、重要な審査です。

これらを経て、行政側からの支援が確定した訳ですが、並行して、土地入手と建設資金を得る為の所謂、記念誌「祈りの応え」に記載した「あゆみの家の奇跡」により建設費、土地入手の費用が与えられた事は、今、振り返ると、神がなされた業であると思います。

そうした経緯で建設する第二あゆみの家には、開園前に職員確保が必要であり、多数の学生の面接をし、優秀な職員を採用出来ました。

この時期に採用された職員も四〇年間の働きを終えて、今年三月をもって退職されました。退職者との面談は無かったが、コロナを乗り越え、利用者の安全、安心を支えてくれた彼等に感謝したい。ご苦労様でした。

「彼らは労苦を解かれて、安らぎを得る」

(ヨハネ黙示録 十四章六〜十三節)

## 季節を感じられる活動

林町デイセンター 生活支援員 柳瀬 茉侑

林町デイセンターでは、活動の中で様々なレクリエーションを行っています。その中でも大切にしていることは、利用者の皆さんが感触、味覚、匂いなど、五感を使って季節を感じて頂ける活動を提供することです。

昨年度は、五月に四年ぶりの大垣祭りへ行きました。ポールすくいや輪投げ、ジューズを屋台で楽しんだり、神輿を見たりして、祭りでしか味わう事ができない雰囲気を楽しめました。また、大垣祭りへ行くことが出来なかった方へは、輪投げや射的、カステラや綿あめを作り、全員の方が祭りの雰囲気味わう事ができるような活動を行いました。

暑い夏には清涼感を感じて頂けるよう、流しそうめんやシャボン玉、スイカ割りなどを行いました。土曜活動では、昼食作りでバーベキューを行い、三チームに分かれてスープ、サラダ、焼き野菜をそれぞれ作りました。日陰とは言葉外は暑かったので、お肉を焼いているところを順に焼いたり見たりし、炭火の独特の匂いやお肉の焼ける良い匂いを感じて頂きました。昼食には、仲間と作った料理を食べ、仲間と作ることの楽しさや達成感を味わうことができました。

秋の土曜活動では、運動会、お月見、秋の味覚狩りなど、秋ならではの行事を楽しみました。特にこだわっている事は本物を体験していただく事です。秋の味覚狩りでは、本



バーベキュー



餅つき

物のイガグリやさつまいもを触って頂き、トゲトゲとした感触や土の匂いを感じて頂きました。また、クッキングでは、生しぼりのぶどうジュースやかぼちゃスムージー、スイートポテトなど、旬の食材を使い味覚で秋を楽しんでいただきました。

新年には、新年会や書き初め、福笑い、餅つきを行いました。餅つきでは、つきたてのお餅や臼など体験できる機会もなかなかないため、驚かれる表情や楽しそうに餅つきをされる姿がありました。

様々な体験をする中で、利用者の方自身も経験として成長する糧となり、経験をすることで選択肢の幅も広がり充実した生活を送ることへ繋がると感じています。また、職員も『このような支援をすると、理解して頂くことが出来る』など、新たな気づきも得る事ができました。今後もしクリエーションを通して五感で季節を感じて頂き、利用者の皆さんにとっても、職員にとっても、楽しみながら様々なことを経験できる活動を提供していきます。

## 地域とのつながり

おおぞら

所長 伊藤佐知子

先日、某うどん店にAさんと一緒に行ったときの出来事です。

「注文をどうぞ」と、私が声をかけると、Aさんは「まだ」と答えます。何が気になって注文をされないのかを私が考えていると、店員さんが「〇〇さんの位置が違うからだわ。〇〇さん戻って」と、他の店員さんに声をかけられました。うどんをゆでる人、天ぷらの準備をする人、会計をする人。すべての店員さんが定位置にいることを確認すると、Aさんは大きな声で「かけうどん」と注文をされました。そして店員さんも笑顔で「かけうどんね」と返事をしてくれました。

Aさんがすぐに注文できなかった理由に店員さんが気づけたのは、Aさんがこのお店を何度も利用している常連さんだったこともあるでしょう。物の位置や人の動きを敏感に察知して行動するAさんのことをよく見てくださっていたのだと思います。「この方は、このような障がい特性があって、このような配慮をしてください。」と、お願いをしたことはありません。お店に来た時のAさんを見てくださっているだけでAさんの行動を理解して対応してくださったことに驚きました。

次のお客さんが待っているときもAさんのタイミング

で注文ができるよう「ゆっくりでいいよ」と、優しい雰囲気を作ってくださいるお店と待っているお客さんたち。次のお客さんをお待たせして申し訳ないと思って、Aさんを急かしてしまうヘルパーが一番Aさんを理解できていなかったようにも感じます。

ヘルパーの仕事をしていると、利用者さんが地域で安心して暮らしていけるように、地域との繋がりを大切に、私たちヘルパーが地域との懸け橋にならなければ。と、考えていたところもあります。でも、私がヘルパーの仕事をはじめた20年前よりも地域の皆さんはあたたかく受け入れてくださるようになったと感じます。

それは、利用者の皆さんが地域に出て自分らしさを発揮してくれていることが大きく影響していると思います。

おおぞらの五カ年計画（令和6年～10年）に、「利用者の方々が、地域の一員として地域の方々と一緒に活躍できる場の創造」を掲げています。実現していくためには、利用者さんの自分らしさ（魅力）を伝える工夫をしていくこと。配慮する点を正しく理解してもらうために、私たちヘルパーが見本となるような支援をしていくことが大切だと考えています。利用者さん、地域の皆さんとともに、安心して暮らせる地域づくりをしていきたいです。



### 一人一人にあわせた意思決定支援

ぐっどらんど 生活支援員 金岩 衣里

ぐっどらんどでは主な活動として工賃受注作業や食品製造を行っています。二〇二四年度は、仕事をメインに行いつつ、楽しい催し物や外出もたくさん行いました。

六月には日帰り旅行で恵那峡へ行きました。大型バスの車内ではカラオケを行いました。じつくり本から選び、皆さん好きな曲を歌い、ノリノリで車内は大変盛り上がりました。

恵那峡に到着し、遊覧船に乗った際には、普段ではなかなか船に乗る機会が少ない方が多い為、皆さん美しい景色を見て「綺麗だね」と口々に言われており、貴重な体験をすることができました。昼食はすき焼きを一人ひとつの鍋で具材を自分で入れて作って食べました。自身で作るすき焼きは格別に美味しくたくさん笑顔がこぼれ、「熱いけどおいしい！」という声があちらこちらから聞こえてきました。

二月の全体喫茶ではキッチンカーをお呼びし、利用者の方一人ひとりにメニューから好きな物を選んで頂き、お店の方と直接お金のやりとりをしました。計算しながらどれをいくつ買うか考えて買われていました。大判焼き、フランクフルト、どて煮など、どのメニューもおいしく召し上がられ、普段と違う雰囲気の喫茶を楽しむことができました。

三月のお疲れ様会ではニーニャニーニョへ行きました。パスタランチのセットにドリンクバーがついており、皆さん自由に自分の好きな飲み物を選び、お代わりする姿がみられました。なかなか選ぶことが難しい方には選択肢を少なくし、わかりやすく伝える事でご自身で選

ぶことができていました。

いずれの活動も、事前に利用者の皆さんに行きたい場所、食べたい物などをアンケートで伺い、意見を取り入れながら計画をしました。また、利用者実行委員の方にも携わって頂く機会を多く設け、利用者の方と一緒に会議等で話し合い、考えながら準備を進めていきました。当日の司会やアシスタントなどもして頂き、皆さんと共に色々な行事を作り上げる事が出来ました。

今後も、利用者主体を第一にしながら、色々な経験を積める機会を大切にしていき、潤いのある生活となるような活動を取り入れていきたいと思えます。



恵那峡ですき焼きを食べました。



恵那峡で遊覧船に乗りました。



お疲れ様会 食事



お疲れ様会 実行委員がいただきますしている所

### 日中活動の拡大

デイセンターあゆみの家 生活支援員 渡邊大翔

デイセンターあゆみの家では、今年度も一日外出や外食、あゆみの家祭やクリスマス祝会等の法人全体の活動など、多くの活動を行いました。そういった活動の中で施設全体として重点を置いたこととして、『活動の規模や範囲の拡大』が挙げられます。

世間的にコロナ禍が明け、前年度から段階的に外出等のイベントを再開していきます。そして今年度は、その規模をより拡大していくことを重視しました。

例えば、一日外出の『わくわくプログラム』では、これまで訪れたことのない場所を訪れています。ロープウェイに乗って楽しめる方々や、新たな体験や発見をする利用者の方の姿を非常に多く見ることが出来ました。そういったことを通して利用者の皆さんの新たな一面に気づき、それを日中の支援に繋げることが出来るという点で、スタッフとしても、とても有意義な活動となったことは間違いありません。

また、あゆみの家祭やクリスマス祝会等の法人全体でのイベントでは、利用者家族の方にも参加していただくことが出来る体制を整えました。

世間的にコロナ禍が明けたとはいえ、大人数が参加するイベントとなれば、感染症対策を徹底することは大前提となり、そこで、食事場所の分散や備品の消毒、屋内会場の換気等、様々な感染対策を講じました。そのため、以前と全く同じ行事の内容というものはなりません。

とが、コロナ禍以降の行事の形として実施すること、それが出来たこと、夫の成果もあり、感染症の拡大を防止するところ、みんなの笑顔、利用者の家族の方、スタッフも含めた全員が楽しむことが出来る行事となり、また、わくわくプログラム In 金華山



わくわくプログラム In 金華山



わくわくプログラム in 長浜



たけのこグループ 外食

た。実際に、多くのご家族の方から『とても楽しかった』『また参加したい』といったありがたいお言葉をいただきました。

日中活動を拡大していくことは、当然それ相應のリスクも伴います。感染症だけでなく、事故や怪我、その他のトラブルと表裏一体と考へても過言ではありません。

一方で、そういった経験を共有することによって、新しい物事を、利用者の方々と共有することによって、新しい支援や関わりが生まれることを目指しています。

これからも利用者の皆さんやご家族の皆さん、そしてスタッフも楽しむことが出来る活動を考えていきます。

# 出来事ピックアップ



2/14(金)いちごお疲れさま会  
【第二あゆみの家】



2/17(月)なのはなお疲れさま会  
【第二あゆみの家】



2/27(木)いちご狩り  
【林町デイセンター】



3/8(土)お疲れさま会(全体)  
【第二あゆみの家】



3/19(水)お疲れ様会  
【ぐっどらんど】



3/24(月)おつかれさま会  
【デイセンターあゆみの家】

**最近のできごと (2/1~3/31)****デイセンターあゆみの家**

- 2/21 (金) 金華篠笛演奏会  
 3/ 3 (月) アート活動  
 3/14 (金) キッチンカー (大判焼き)  
 3/24 (月) お疲れさま会

**ぐっどらんど**

- 2/18 (火) 綾里幼保園交流会  
 2/21 (金) 全体喫茶外出 (キッチンカー)  
 3/19 (水) お疲れさま会

**林町デイセンター**

- 2/13 (木) 個別外出 (カラオケ)  
 2/21 (金) 喫茶外出 (ドール)  
 2/27 (木) 一日外出 (いちご狩り)  
 3/11 (火) お疲れさま会

**第二あゆみの家**

- 2/14 (金) いちょうG お疲れさま会  
 2/17 (月) なのはなG お疲れさま会  
 2/26 (水) ポプラG お疲れさま会  
 3/ 8 (土) お疲れさま会 (全体)

**きずな2006**

- 3/28 (金) 橋爪ホーム竣工式  
 3/28 (金) ~29 (土) 橋爪ホーム内覧会

**西濃障がい者就業・生活支援センター**

- 2/12 (水) 障がい者就労支援セミナー  
 「障がい者雇用の『質の向上』を目指して」

**ボランティア (2/1~3/31)**

- 2/21 (金) 岐阜金華篠笛会3名  
 (デイセンターあゆみの家)  
 2/4、18、25 個人ボランティア  
 (林町デイセンター)

**ふれあい交流 (2/1~3/31)**

2/18 (火) 綾里幼保園との交流会 (ぐっどらんど)

**行事予定**

7/19 (土) 合同職員研修会 (法人全体)

**共同募金 施設内機器等整備事業**

2025年3月、岐阜県共同募金会 NHK 歳末助け合い募金より配分を受け、「林町デイセンター」で使用している iPad、デジタルカメラ、無線 LAN 機器を購入することができました。より幅広い活動が可能になって利用者もさらに充実した日中活動ができるようになりました。

みなさまの善意に感謝申し上げます。ありがとうございました。

**編集後記**

あゆみの家も新年度がスタートしました。みなさんはなんだか身体が重く、疲れが溜まっているなあと感じることはありませんか？疲れの解消法として、私はたくさん睡眠を取るようにしています。でもたまに、横になっても身体は重いし頭の中がいっぱいですっきりしない時もあります。単純にご飯の食べ過ぎでお腹が重いなら良いですが、気が付かないうちに心にも色々なものを抱えていると、身体ずっしりと重くなっていくのです。

「1日の苦労はその日だけで十分である」と聖書にあるように、毎日新しい1日を気持ちよく始めていきたいと思えます。(神崎あ)

編集：社会福祉法人あゆみの家

〒503-2123 岐阜県不破郡垂井町栗原2066-2

Tel 0584-22-4333 (代) FAX 0584-22-4344

URL <https://ayumi-ie.com/>

E-mail [ay464h@he.mirai.ne.jp](mailto:ay464h@he.mirai.ne.jp)

**グループホームのご案内**

## ●めぐみホーム

不破郡垂井町表佐

## ●東神田ホーム

不破郡垂井町東神田

## ●別庄ホーム

養老郡養老町橋爪

## ●橋爪ホーム

養老郡養老町橋爪

## ●表佐ホーム

不破郡垂井町表佐

## ●あいかわホーム

不破郡垂井町



公式 Instagram